

YŌKOSO! JAPAN大使 (平成21年5月29日任命の10名)

うざき いっそう
宇崎 逸聡 氏【サン・バイ・サンワークス(有) 代表取締役】

映画を活用した日本の魅力の発信と訪日外国人誘客促進

北海道東部が重要な舞台である2009年中国正月映画「非誠勿擾」(フェイスエンウーラオ)の日本側の制作責任者を務めた。本映画は中国の正月映画として過去最高の興行成績を収める大ヒットを記録し、従来、札幌、洞爺湖、小樽など道央地区を巡る内容が中心であった中国からの北海道ツアーにおいて、道東も含めた北海道広域がクローズアップされるきっかけとなった。本映画に関連した誘客促進事業も奏功し、多数のツアーが催行されるなど、誘客促進に大きく貢献している。また、中国エンターテインメント業界との人脈を生かし、日本の魅力の情報発信、誘客促進に努めている。



おん すいびん
温 翠蘋 氏 (台湾)【女優】

海外のテレビ番組を通じた北海道の魅力発信

温氏がメインリポーターを務めた北海道観光PR番組(2004年)は、台湾で好評を博し、北海道ブームの火付け役となった。2005年に国土交通省北海道運輸局から「Visit北海道Queen」に任命されて以来、毎年出演している北海道誘客促進のためのテレビ番組は、台湾を始め、香港、シンガポール、マレーシア、北米、豪州の各国で放送されており、北海道への誘客促進に大きく貢献している。また、台湾で開催されているITF(国際旅行博)にも毎年参加し、日本ブースの舞台で北海道をPRしている。北海道の観光情報について台湾の新聞への掲載を自ら働きかけているほか、自身のブログでも北海道の観光情報を発信するなど、ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)に積極的に貢献している。



ちよ そんは
趙 誠夏 氏 (韓国)【東亜日報スポーツレジャー部局長】

韓国日刊紙を通じた訪日スキー・文化体験を目的とした訪日旅行の振興

韓国3大日刊紙のひとつである東亜日報のレジャー部記者として、2000年2月に「白馬スキー場」の記事を掲載し、それまで無名であった日本のスキーを初めて韓国に紹介したことを皮切りに、白馬以外の日本のスキー場に関する記事を多数掲載し、訪日スキーの認知度向上に大きく貢献した。2000年当時スキーのために日本を訪れる韓国人はごくわずかであったが、2007年のシーズンには2万人を超えるまでになった。その後、スキーのみならず、日本の温泉、旅館、日本酒に関する記事を多数執筆し、日本の多様な観光の魅力を東亜日報という有力媒体上で発信しつづけており、訪日旅行の振興に精力的に努めている。



つじむら ゆか
辻村 由佳 氏【(財)国際観光サービスセンター 成田国際空港外国人観光案内所 所長】

外国人観光案内所での対応を通じた旅行環境の整備

日本を訪れた外国人旅行者が最初に日本の情報を得る場である成田国際空港外国人観光案内所(TIC)で、どんな小さな問い合わせにも相手が納得するまで対応するということをモットーとして、外国人旅行者が日本を楽しく旅行できる環境づくりに努めてきた。訪日外国人の生の声に直接接する機会が最も多い立場あることから、現場で得た訪日外国人のニーズを把握し、それを講演等を通じて情報発信することにより、訪日外国人受入体制整備に積極的に取り組んでいる。



ふくだけ そういちろう

福武 総一郎 氏【(株)ベネッセコーポレーション 代表取締役会長兼CEO】

地域の資源や魅力を活用したアートプロジェクトによる訪日促進

ベネッセアートサイト直島代表。1989年より、直島(香川県)に美術館と宿泊施設を兼ねた「ベネッセハウス」を開設。古民家を活かした本村地区の「家プロジェクト」、安藤忠雄氏建築による地中美術館等20年間にわたり現代アートを活用し、過疎の離島でダイナミックな地域づくりを実践している。現在では、日本を代表する観光地にもなっており、2008年の来島者は、30万人を超える。犬島(岡山市)でのアートプロジェクトも立ち上げているほか、2010年に開催される「瀬戸内国際芸術祭」の総合プロデューサーをつとめ、世界に向けて瀬戸内海の魅力を発信している。



ベスライバー 氏 (米)【米国Frommer's Guide執筆者】

20年以上に渡り米国のガイドブックで日本の情報を発信

米国の旅行ガイドブックシリーズの草分けである「フロマーズ」において、20年以上の間、訪日旅行情報の発信に取り組んでおり、初版から第10版までの改訂履歴は、そのまま訪日観光の移り変わりを示すものである。2年に1度の改訂の際には必ず自身の足で取材地を再訪し、日本政府観光局(JNTO)や地方公共団体に対して自身の経験に基づいた外客受入体制改善策の助言を行っている。これらの経験を活かし、2007年に始まったビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)北米向けウェブサイトではブログのメイン執筆者として活躍しているほか、CNNがVJCを取材した際にもコメンテーターとして出演するなど、VJCに積極的に貢献している。



ベルナール デルマス 氏 (仏)【日本ミシュランタイヤ(株)代表取締役社長】

世界的に有名なガイドブックの発行により、日本の魅力を世界に発信

フランスのレストラン&ホテルガイド「ミシュランガイド」の東京版や、訪日外国人観光客向けのフランス語実用旅行ガイド「ミシュラン・ボワイヤジェ・プラティック・ジャポン」、日本の文化をより深く理解できるよう歴史等も詳しく説明している「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」など、日本の食、文化、生活、芸術、経済等の魅力を伝えるガイドブックの発刊にあたりVJCとの連携を進めるなど重要な役割を果たし、訪日外国人旅行者誘客に貢献している。わざわざ訪れる価値のある場所として三つ星に選ばれた高尾山の玄関口となる高尾山口駅では、発刊年度(2007年度)の利用客数が前年度比約12%増の110万人となり、外国人観光客が大幅に増える等、絶大な誘客効果が表れている。



まち たかし

町孝 氏【九州旅客鉄道(株) 取締役 鉄道事業本部営業部長・旅行事業本部長】

九州における受入体制整備を進め、韓国からの誘客促進に貢献

博多駅長時代、全国に先駆けて、駅のハンゲル表記を実態に合わせたわかりやすいものに改善。ジェイアール九州ハウステンボスホテル社長就任後は、韓国人スタッフの採用、ハンゲル表示など韓国人観光客の受入体制を整備した。また、周辺地区(特に長崎県波佐見町)の地域づくりにも参画し、韓国康津(カンジン)郡との焼き物を通じての交流の橋渡し役となった。現職就任後は、鉄道乗り降り自由のフリー商品「九州レールパス」の「北部九州版」の導入や、韓国人ライター・カメラマンによるガイドブックの作成・配布により、訪日外国人の九州内周遊の利便性向上に貢献している。また、日韓の5大学で観光学の客員教授などを務め、若者の相互理解・交流促進にも貢献している。



まつやま だいこう

松山 大耕 氏【妙心寺退蔵院 副住職】

禅の心を通じた日本文化の発信、外国人観光客受入体制の整備に貢献

2006年に退蔵院副住職に就任して以来、観光産業において日本独自の文化を紹介していくことの重要性を認識し、英語による禅体験などで1年間に約300人の外国人旅行者を受け入れている。単に目新しいことで外国人観光客を呼ぶのではなく、通訳を介さずに禅の心・作法・思想を直接説く手法と、長く旅行者の記憶に残る体験となるような内容の工夫により、外国人旅行者の人気を集めている。また、各種セミナー等での講演を通じて外国人観光客受入体制の整備に貢献すると共に、2008年には、サミット次官級準備会合(シェルパ会合)のエクスカージョンで書道体験などの受入を行い、日本文化の情報発信・交流に尽力している。



リム ジョージ 氏 (シンガポール) 【Ishikawa Communications Managing Director】

無料情報誌の発行により、日本への旅行者送客に貢献

2006年9月、シンガポールで日本旅行専門の無料雑誌「GoJAPAN」を創刊し、市内のカフェ等で配布を行っている。更に、毎年NATAS(シンガポール全国旅行業協会)旅行販売フェアにあわせて特集を組み、会場においても同誌の配布を行っている。2008年には「GoJAPAN Matsuri」というイベントを企画し、様々な日本文化のPRを行っている。更に、2009年3月にはマレーシア市場向けの「GoJAPAN」誌を創刊し、同国内のMATTA(マレーシア旅行業協会)旅行フェアでの配布を行う等、活動の範囲を拡大し、訪日旅行PRに特化したイベント、出版物の企画により、訪日旅行促進に多大な貢献をしている。



(備考) 氏名の次の括弧()内は国籍。ただし日本国籍の場合は記述していない。